

令和4年度学校関係者評価

中央調理製菓専門学校静岡校 製菓衛生師科

令和4年度学校関係者評価委員

■保護者

山田 佳代 様（製菓衛生師科2年 山田翔平君 保護者）

■企業関係者

皆川 友香 様（株式会社日本平ホテル 総務人事課マネージャー）

■他校関係者

堀池 悟 様

（中央歯科衛生士調理製菓専門学校 調理製菓総合学科 学科長）

1・教育理念・目標

【自己評価結果】		平均
1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。	A
2	教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。	A
3	教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。	A
4	組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。	A
5	鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。	A
【現状の問題点】		
同じベクトルを向いて目標達成を目指すという意識が高いことが表れている。今後もディプロマポリシーを中心にカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを定期的に検討して、時代に合った目標設定をしていきたい。		
【改善のための方策】		
カリキュラムポリシーが達成できているか、一度立ち止まって意見を出し合う。できている部分は強みと捉えてさらに強化していく。		
【関係者評価】		
毎日、毎回クレドを唱えることは賛成。 カリキュラムマップで教員が目標共有していることは評価が高い。すべての項目が関連づいてくることは分かりやすい。		

2・学校運営

【自己評価結果】		平均
5	目標を達成するための事業計画が策定されているか	A
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	A
8	就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。	A
9	組織内の連携は適切に図られているか。	A

10	上司の指示は適切にされているか	A
11	上司は提案を受け入れてくれているか	A
12	職場内での教職員教育・指導は充分なされているか。	A
13	BSCは適切に活用されているか。	A
【現状の問題点】		
この項目も評価が高く、意識が徹底されていると理解できる。これからもDxによる業務の効率化は積極的にグループ校の活用事例を参考にするなど教職員の日頃の意識を継続して高めていきたい。BSC(バランス・スコア・カード)の策定にあたっては、上位者評価・学生アンケート・自己点検自己評価などの結果をフィードバック、フィードフォワードして具体的な施策を決めていく等の細かい目標づくりを目指す必要がある。研修については研修・評価ワーキンググループが活動中であるため、協力意識を啓蒙していく必要がある。		
【改善のための方策】		
DXの活用。「ものぐさ」を活用することにより、業務の負担を減らせると想定できる。残業について。本日中に必要な内容なのか、何故定時で終わらないのか整理していく。BSCが達成できているか振り返り可視化して改善していく。		
【関係者評価】		
企業でも他部署間で情報の共有をしている。例えば、掲示板の文化を継承し、聞いていない・知らないがないような環境づくりをしている。 FBコントロールを導入し、食材管理の効率化を図っている。		

3・教育活動		
【自己評価結果】		平均
14	授業評価の実施・評価体制はあるか	A
15	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A
16	資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。	A
17	資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。	A
18	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A
19	目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。	A
20	職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか	A
20	シラバスは十分に検討し作成されていたか。	A
21	シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。	A
22	教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか	A
23	十分に余裕を持って教育行事の準備が出来ているか。	A
24	学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。	A
【現状の問題点】		
最重要である製菓衛生師免許取得には国家試験に合格する必要があるだけに、入学直後からの国家試験対策が必要である。Google Workspaceの活用による学習成果の可視化や業務の効率化を行い、さらに個別最適化を推進して欲しい。シラバスは学生の学修状況によって毎月見微調整するなど実効性の高いものになっている。情報共有の徹底と余裕を持った周知についても年々向上している。今後も継続		

国試対策の強化。学生の意識を高め1回目での全員合格を目指す。「ものぐさ」がどう成績向上に効果があるか検証する。実技試験練習に動画を取り入れていく。	
【関係者評価】	
到達度を見ながらシラバスを見直すことは共感できる。 アプリ導入も現代の勉強法に準じていると思う。	

4・学修成果		
【自己評価結果】		平均
26	就職率の向上が図られているか	A
27	退学率の低減が図られているか	B
【現状の問題点】		
就職に関しては、就職率だけでなく就職先の質も上がっており、離職率も下がっている。令和4年度は在校生だけでなく卒業生も閲覧できる独自の求人サイトを立ち上げるなどした。退学者は入学時から学校生活へ馴染めるか、志望が明確かなど心配だった学生が多いが、早期に対応する仕組みづくりが大切と思われる		
【改善のための方策】		
退学に関して。当初から欠席が多い学生よりも、突然退学意思表示をして救済出来なかった学生への対応。少しの変化を見逃さずに個別の対応と情報共有を強化していく。		
【関係者評価】		
モチベーションの幅が広いのは企業でも同じことが言える。 色々な学生がいるので連鎖をくいとめるためにどうするのか考える。		
5・学生生活支援		
【自己評価結果】		平均
28	学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。	A
28	各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。	A
29	防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。	A
30	進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。	A
31	中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。	A
【現状の問題点】		
いずれも高い評価になっており、日常業務でこの項目への自覚が高いのはとてもよい。客観的な数値との比較も重要なので、学生アンケートの同様の項目での評価結果を十分に踏まえない。学校行事や授業科目で目標や目的を十分学生に話すことを励行することが必要。		
【改善のための方策】		
カウンセリングがより良く機能するように学生に案内したい。 進路選択に関する行事への学生の理解度を高めるため、各行事ごとに目的をしっかりと伝える。		

【関係者評価】	
いずれにしても評価が高い。 行事目的をしっかりと説明することで終わった時の達成度や成長具合も変わってくる。	

6・教育環境	
【自己評価結果】	平均
33 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A
【現状の問題点】	
教育機器の更新と追加整備は怠りなく実施している。教育に必要な機器は十分に整っていると思われるが、教育内容の変化に応じて検討しなおすことが重要である。	
【改善のための方策】	
安全面、衛生面に考慮して、時代のニーズを考えて学生の学びに必要なものは予算を組んで整えていく。	
【関係者評価】	
設備を使いこなすことができるかも重要視されること。	

7・学生の受け入れ募集	
【自己評価結果】	平均
34 学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法、時期は適切か。	A
34 入学案内（パンフレット）には志願者が必要とする情報が掲載されているか。	A
35 体験入学の時期、回数、内容は適切か。	A
36 入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。	A
【現状の問題点】	
充実した質の高い私学教育を実現するには学生募集が重要であることを教職員がよく理解し、協力して実践していると言える。静岡校の教育の特長を十分に伝えて欲しい。	
【改善のための方策】	
ライバル校のOCの動向を研究して、OCの内容をより良いものにする。今の流行りを取り入れ、本校の強みを活かしていく。	
【関係者評価】	
学生スタッフの取り組みは評価が高い。 メモをとることが習慣化されており、職場でも継続されている。自分だけのレシピノートを作成している。 若手のメニュー考案など、やりがいを持たせることで職場内では盛り上がりをみせている。	

8・財務		
【自己評価結果】		平均
38	・中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか	A
39	・学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか	A
【現状の問題点】		
現状は十分な学生数が確保できており安定していると言えるが、長期的には賃貸の校舎である点も考慮すると一定数の学生数を継続して確保することが重要になる。効率的で無駄のない資金の活用を心掛けたい。また、予算の執行に関しては消耗品費や教材費に無駄がないように定期的に確認したい		
【改善のための方策】		
在庫管理の方法を変更するとともに、消耗品を適切に使用する意識を学生に伝えていく。各教員が予算執行に対して意識を高く持つよう努めていく。		
【関係者評価】		
評価が高い。 価格高騰にも対応していく必要がある。		

9・法令等の遵守		
【自己評価結果】		平均
40	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A
40	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A
41	個人情報保護法を遵守しているか。	A
42	各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。	A
【現状の問題点】		
個人情報とは年1回の溶解による書類の処分を実施しており、デジタルデータに関してもネットワークと個々のPCの両方でセキュリティを確保している。但し、教職員の個人情報データについてのリテラシーは今後も研修を継続していくことが必要。ハラスメントはこの2年間は十分に委員会が機能していなかったため、今後は委員会活動を活発化させる必要がある		
【改善のための方策】		
引き続き個人情報の扱いに注意を払っていく。		
【関係者評価】		
企業ではハラスメントではグレーゾーンがないように相談窓口を設けている。相談員は講習を受けている。 メンタルヘルスケアを重要視して個人的悩みをきくなど、自分の状態を話ができる相手が必要だと考えている。特に忙しくなる秋に落ち込む社員が多いのでメンタル崩壊する前の対応にあたっている。		